【29】

氏　名(国　籍)	MONDAY OHI ASIKHIA（モンデエ オヒ アシシア）（ナイジェリア）
学位の種類	博　　士（都市・地域計画）
学位記番号	博　甲　第　1,461　号
学位授与年月日	平成 8 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	社会工学研究科
学位論文題目	The Influence of Demographic Change on Hospital Utilization Pattern : A Case Study of Hiroshima Prefecture, Japan （人口構成の変化が病院利用パターンに与える影響：広島県における事例研究）

主　査	筑波大学教授	工学博士	腰　塚　武　志
副　査	筑波大学教授	工学博士	谷　村　秀　彦
副　査	筑波大学教授	工学博士	池　田　三　郎
副　査	筑波大学教授	農学博士	佐　藤　洋　平
副　査	筑波大学助教授		安　田　八十五

論　文　の　要　旨

近代医療の普及に伴う生活水準の向上と出生率の低下によって，日本は急速な人口構成の変化のただなかにある。今日では65歳以上の高齢人口比率は全人口の14％に達し，既に高齢化が進行している西欧諸国の数倍の速度で高齢人口比は増大しつづけている。このような人口構成の変化は遠からず医療上の様々な問題をもたらすであろうと考え，本論文は人口構成の変化を考慮した医療施設の供給計画に関する研究，特に具体的に広島県における事例研究を目指したものである。

論文は 6 章より成り，まず第 1 章ではイントロダクションとして，研究の背景や研究の目的さらには事例研究として取り上げられる広島県の地域分割とデータソースが述べられている。次の第 2 章では将来の人口構成を予測するモデルがコーホートの考えをもとに作成され，1995年と2000年の人口構成が推計される。第 3 章では，広島県における実際の患者調査（1973，1984）をもとに 0 歳から14歳，15歳から64歳，65歳以上の年齢別に，患者がどこの病院を利用するかを説明するモデルが構築される。そして第 2 章で予測された人口構成により将来の医療需要が推計され，それが各地の病院に割り当てられる。

第 4 章ではランダム効用理論により病院選択のロジットモデルが推定され，それにもとづいて病院病床数の最適配分が計算される。例えば1990年の最適配分では，広島市のシェアが41.9％と計算され，現実のシェア44.6％よりも少ないことが示されるが，人口構成の変化を考慮して2000年の最適配分では43.0％であり，しかも総需要も大きくなるので，実際には広島市であと2,921ベッド必要となる，といった計算が詳細に示される。これは第 4 章の成果だけのみからは得られないことであり，第 2，3 章における人口構成変化と年代別の病院利用のモデルが成功したことによるとされている。つまり人口構成の変化に応じて各時点における医療施設の最適な規模が算出でき，これにもとづいて再配置を考えることが重要であると結論されている。

最後に第 5 章ではナイジェリアにおける本研究の適用の妥当性が論じられ，ついで第 6 章でまとめと今後の課題が示されている。

審　査　の　要　旨

現実の大量なデータを丁寧に分析し，将来の２時点における最適な病院のベッド数を，人口構成の変化に応じて計算し，都市地域計画上意味のある結論を導いた点は学位論文として十分評価できる内容となっている。また，本論文にはオリジナリティーの高い理論上の貢献は少ないが，従来別々に議論されていた第２章のコーホート分析，第３章のインタラクションモデル，第４章の最適配分を一連の現実的な手順として結びつけ，現実的な数字を計算した点が評価できる貢献であると考えられる。

よって，著者は博士（都市・地域計画）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。